

WEL・NET

通信

- 特集 西リハの三位一体 リハ・栄養・口腔
- 新任医師のご紹介・学会のお知らせ
- ニュース・メディア掲載・学会発表・放射線技師紹介

2025.5

発行日 令和7年 5月 15日
発行 西広島リハビリテーション病院
事業局
☎ 082-921-3230 (代表)
URL <https://www.welnet.jp/>
E-mail wel@welnet.jp

WELNET 通信は、西広島リハビリテーション病院の地域リハビリ・地域連携に関わる活動をご紹介します広報誌です



写真は入院当日の多職種合同評価の様子です。回復期リハ病棟では多職種で評価・意見交換をする場面が多く設けられ、連携してより良いリハ・ケアの提供を目指しています。

▶▶▶ 詳しくは p.2 へ!

入院時合同評価

西リハの三位一体

リハ・栄養・口腔

略語： PT 理学療法士 OT 作業療法士 ST 言語聴覚士 RD 管理栄養士 DH 歯科衛生士 Ns 看護師

各分野の専門性が重要であることはもちろんですが、1つの領域だけで高い目標へ到達することはできません。嚥下機能面だけを見るのではなく、身体機能面からも考えるなど、多角的なアプローチが必要です。ある領域が進んだら（あるいは行き詰ったら）、別の領域でどうするか？ など、その都度チームで密に意見交換をして、少しずつ目標へ向かって成果を積み重ねていきます。各専門職が他の領域も理解し、守備範囲が少しずつ重なった右図の輪のように、「一体」となって進めて行くことが重要なのです。

「医療法人社団朋和会」のウェルネットマーク。少しずつ重なった輪は、「お互いに一歩踏み込んで連携する」ことを表しています。



令和6年の診療報酬改定にて、急性期における「リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算」が新設されました。西リハでは2000年から多職種連携のリハビリテーションを行っていますが、「リハ・栄養・口腔の三位一体」の重要性や取り組みについて、改めて専門職に聞いてみました！



図：リハ・栄養・口腔の三位一体の目標

なぜ、三位一体が必要なのか？

西リハの三位一体の強みは？

十分な人員とPDCAが回るシステムの確立

- PT** 2週間ごとのミニカンファレンスをはじめ、相談の場が多いのが強み
- Ns** みんなで話し合う機会がたくさんあること自体がいい
- RD** 三位一体の重要性を全員が理解し、それぞれがお互いの領域も理解し、気にかけている
- ST** 多くの取り組みに主治医が参加する
- OT** 担当チームだけでなく摂食嚥下支援カンファレンスからも助言がもらえ、良い刺激になる

早期から歯科衛生士を病棟に配属

- DH** 当時の病院長（故北岡保先生）が口腔ケアの重要性に着目し、2004年から継続して歯科衛生士を配属
- ST** 現状の歯の様子も分かるし、実際に患者さんの歯が改善して、リハの効果UPにもつながっている

病棟での意見交換がスムーズ

- RD** みんな心掛けて病棟にいるようにしている
- DH** みんな病棟にすることで、普段の様子や生活の流れがよく分かる
- OT** 先生方が現場のスタッフの近くにいてくださり、相談しやすい

各職種の役割

管理栄養士・課長
影山 典子



RD

まずは患者さんがしっかり食べることができていて、体重が減らないこと、その管理が中心となります。体重が改善するとFIMの改善につながるというデータもありますし、私たちとしてはそこは外せません。食べられない場合は、何が食べられるかを模索します。ご飯がダメなら麺やパンならどうかなど、ルールの範囲内で、出来る限り対応を考えていきます。

歯科衛生士
折出 由起(左)
尾川 直子(右)



DH

誤嚥性肺炎・低栄養・脱水といったリスクに対処することがとても重要です。歯が無い方、口腔内の状態が良くない方は低栄養になりやすいですし、義歯を適切に使用していないとバランス感覚やふんばる力に影響し、転倒のリスクが上がるといったデータもあります。口腔健康管理から全身の健康の土台を作ることが、歯科衛生士の役割だと思います。

看護師・副主任
坂根 亜紀



Ns

看護・介護職員は、三位一体の円が重なる中心にある「生活」を見る存在だと思っています。体重の数字やリハの評価をふまえた上で、じゃあ実際の生活の中ではこの患者さんはどのくらい動作ができて、ご家族はどんなふうに関与をするのか、ということを考える。みんなの専門的な視点と生活の視点がうまく合わさると、すごくいいケアにつながると思います。

理学療法士・副主任
芦澤 建太



PT

理学療法士の専門分野は、運動と姿勢。しっかり運動してしっかり食べてもらえるよう、栄養状態を確認しながら、運動量やリハの負荷量を先生と相談します。誤嚥が起こらないよう、食事時の姿勢にも気をつけます。また、食べ物を誤嚥した時にはしっかり咳をして出せるように、頸部の筋肉や可動域を良くすることも行っていきます。

作業療法士・副主任
高木 望



OT

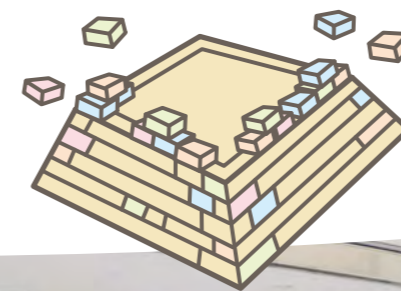
患者さんに適した食べ方を、様々な視点から追求します。実際の食事場面を観察して、姿勢や位置、角度を調節したり、自助具や福祉用具の使用を検討したりします。入院前はどのように食事をされていたのか、希望はどうかなどをふまえて、退院後はどうするかを考えていきます。患者さん1人1人の状況や好みにできるだけ即した提案をしたいと思っています。

言語聴覚士・主任
今橋 郁美

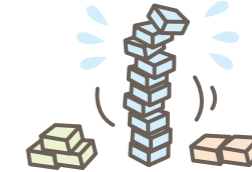


ST

嚥下機能の評価を行い、現在の状況がどうであるかを専門的な知識を持って把握しているのが言語聴覚士です。その情報をチームのメンバーに伝え、食形態や訓練の方針決定においても中心的な役割を担います。チームの全員が患者さんをよく知り、自分の専門性から意見や助言ができるので、皆で良い方向へ進めて行っていると思います。



土台をしっかりさせながら、みんなで少しずつ目標に向かって積み上げていくイメージです。



1つの分野だけで高い目標へ到達することはできません。

具体的な取り組みをPickUp!



1 入院時合同評価(嚥下機能の評価) 2 初回ミニカンファレンス 3 摂食嚥下委員会 4 動画も活用できる院内LANデータベースシステム 5 摂食嚥下支援カンファレンス 6 VF(嚥下造影検査) 7 ミールラウンド

新任医師のご紹介

新たに3名の医師が赴任致しました。

本館1階・西館2階病棟

リハビリテーション科

医師 くぼやま ありさ
久保山 有紗

出身地 東京都

趣味 サイクリング、読書

2月より赴任いたしました久保山と申します。東京慈恵会医科大学付属病院に所属しており、これまでは東京の病院で勤務しておりました。至らない点多々あることと思いますが、精いっぱい頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



本館2階・西館2階病棟

リハビリテーション科

医師 ささやま ゆうき
笹山 裕貴

出身地 神奈川県

趣味 PCゲーム・読書

4月より赴任いたしました、広島大学リハビリテーション科所属の笹山と申します。これまで、沖縄、和歌山と地域医療を経験してきました。それを土台に、さらに研鑽をつんでいきたいと思っております。職員の皆と共により良い医療を届けられるよう努力して参ります。よろしくお願いいたします。



本館1階・西館2階病棟

リハビリテーション科

医師 おおつか てるお
大塚 輝生

出身地 広島県

趣味 動画鑑賞

はじめまして。4月より赴任いたしました大塚と申します。リハビリテーション科医として、機能障害をしっかりと診て、患者様の希望に対して医学的観点からアドバイスを行うことができるような医師を目指しております。ご迷惑をおかけすることも多々あることとは思いますが、一生懸命努めさせていただきますので、よろしくお願い致します。



第14回

日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会 広島大会

ともに歩み、あすを拓く



会期

2025年6月21日(土)～22日(日)

会場

安芸区民文化センター
(広島市安芸区船越南三丁目2-16)

大会長

岡本 隆嗣
医療法人社団朋和会
西広島リハビリテーション病院 病院長

実行委員長

上森 奨悟
医療法人社団朋和会
西広島リハビリテーション病院 リハビリ部副部長

運営事務局

西広島リハビリテーション病院 事務局
carering2025.hiroshima@gmail.com

入場料
2日間で
900円



詳細は学会ホームページを
ご参照ください

全国大会お知らせ ▶ 第14回広島全国大会



参加お申込み
フォーム

必要事項を入力の上
お申し込みください。



10
OCT

2024.10.4-5 第6回 日本スティミュレーションセラピー学会学術大会 in 大阪

「融和 爆発的躍動へ」がテーマの学会で、岡本 隆嗣 (医師・病院長)、今橋 郁美 (言語聴覚士・主任)、漆谷 直樹 (作業療法士・リハビリマネジャー / 現副部長)、渡邊 匠 (理学療法士・副主任) が発表を行い、今橋言語聴覚士は、理事長賞を頂きました。2026年の大会は当院が主催する予定です。



11
NOV

2024.11.25 病院見学 ダナン医科薬科大学より



ベトナムのダナン大学 医学部・薬学部学長が来院し、リハビリ訓練室やリハガーデンなどを見学されました。

12
DEC

2024.12.16・17・20 / 12.27 一点深掘り発表会・表彰式

朋和会の質向上活動「一点深掘り発表会」が行われ、各チームがさまざまな業務改善活動について、1年間の成果を報告しました。2024年度の最優秀賞は、リハビリノートWG チームが獲得しました。



10
OCT

1
JAN

2024.10.25 / 2025.1.30 回復期・生活期 合同症例検討会

第43回
第44回



退院患者さんの事例を共有してリハ・ケアの質向上を目指す検討会を、2012年から行っています。今回は、ICFのPositive・Negativeの項目で退院後の状況を分類・検討したり(第43回)、住民主体の通いの場へつなげる場合に考えることなどを話し合いました(第44回)。

12
DEC

1
JAN

2024.12.13・2025.1.6. 介護予防教室「音楽療法で 楽しく脳と体を動かそう」

美鈴が丘公民館(12月13日)・藤の木公民館(1月6日)にて、介護予防教室を行いました。大瀧 智陽(音楽療法士)による認知症と音楽療法についての講義の後、大瀧音楽療法士の演奏で福岡 さおり(健康運動指導士)がボールや折り紙を使用した体操の指導などを行いました。



4
APR

2025.4.8 広島市 中学生のための お仕事ブック 2025 年度版

株式会社中広より発行された冊子(広島市・2025年度版)に、当院の紹介が掲載されました。キャリア教育に役立つ教材として、広島市内配布許可エリア公立中学校2年生の生徒さんに配布されます。



こちらから、
当院のページ
をお読みい
ただけます



(2024年11月~2025年4月)
最新情報はこちらからご確認ください



※ 医師やスタッフの肩書き/氏名は掲載時点のものであり、現在は変更している可能性があります。 ※ 筆頭発表者・執筆者のみ表記しています。
※ DR:医師 PT:理学療法士 OT:作業療法士 ST:言語聴覚士 RM:リハビリマネージャー NS:看護師 CW:介護福祉士 CP:公認心理師 RD:管理栄養士

外部講演

- 2024.10.20 岩国 YMCA 国際医療福祉専門学校 保険看護学科 1年生
リハビリテーション学
急性心筋梗塞患者の急性期リハビリテーション 中川 大輔 (NS)
- 2024.11.27 痙縮治療 UPDATE ハンズオンセミナー in 山口
ボツリヌス治療における筋同定 三尾 仁人 (DR)
当院における痙縮治療の考え方 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2025.1.11 広島地域リハビリテーションシンポジウム
広島地域リハビリテーションシンポジウム (広島二次医療圏)
岡 光孝 (OT・地域支援RM)
- 2025.1.19 令和6年度 第8回 生活期のリハビリテーション医療にかかわる
医師のための研修会(初級)
地域における医師の診療と多職種協働 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2025.1.24 令和6年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業 /
全国における地域リハビリテーション体制の調査研究事業
生活を支援する地域の多様な資源(支援)を生み出す地域リハ
支援体制 岡 光孝 (OT・地域支援RM)
- 2025.2.1 第9回 チームアプローチ研修
看護・介護とセラピストの協働~当院での取り組みの紹介~
山田 邦彦 (CW・主任)・藤井 琢磨 (PT・副主任)
- 2025.2.15 第1回:回復期におけるリハビリテーション診療に係る研修会
回復期のリハビリテーション診療における痙縮治療 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2025.2.16 令和6年 診療報酬に関する研修会(広島県理学療法士会)
医療と介護におけるリハビリテーションの連携について考える
医療・介護報酬に関する話題 松四 健太 (PT)
- 2025.2.21-22 回復期リハビリテーション病棟協会 第45回 研究大会 in 札幌
都市と地方にまたがる中間型施設における医療・介護連携モデル
の構築と実践~前方連携・後方連携の強化と実際~ 岡 光孝 (OT・地域支援RM)
委員会企画 1 回復期から地域へつなぐ退院後のフォローアップ
~退院後の食生活のフォローアップ~ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
ランチョンセミナー 1
回復期リハビリテーション病棟における痙縮の治療戦略
~早期ボツリヌス療法の実践~ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2025.3.13 GSK BOTOX Spasticity Web 講演会
早期治療介入が必要な痙縮患者と退院後フォローアップに繋げるポ
イント 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2025.3.14 広島県老健協議会研修
地域リハ塾の活動 上森 奨悟 (OT・副部長)
- 2025.3.29 GSK Spasticity Discussion Forum in Tokyo ~回復期からみた
生活期における見逃された痙縮患者を救うためにできること~
回復期から生活期における痙縮治療の実際と課題 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2025.4.7 回復期リハビリテーション病棟協会オンデマンド研修
回復期リハビリテーション病棟におけるチームアプローチ
高次脳機能障害のリハビリテーション 岡本 隆嗣 (DR・病院長)

学会発表

- 2024.11.6-10 第8回アジア太平洋作業療法学会、第58回日本作業療法学会
頸髄損傷用車椅子グローブを使用することで車椅子移乗・食事・
整容・更衣が自立に至った重症ギラン・バレー症候群の一症例 黒田 玲菜 (OT)
普通箸操作を分類し不十分な動作を重点的に訓練した結果動作確
立に至った脳梗塞片麻痺の一例 石東 徹 (OT)
- 2024.12.1 第57回中国四国リハビリテーション医学研究会
第52回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会
蛋白質摂取量が患者に及ぼす影響について 一腎機能、FIMの観点から 三尾 仁人 (DR)
- 2025.1.26 第10回歩行リハビリテーション研究会
脳卒中患者に対する PhysiboGait を使用した歩行訓練の即時的
効果と経時的変化の特徴(ケースレポート) 鶴田 晃啓 (PT)
回復期リハビリテーション病棟における歩行支援ロボット
Physibo Gait の活用 松下 信郎 (PT・主任)

- 2025.2.21-22 回復期リハビリテーション病棟協会 第45回 研究大会 in 札幌
フレネルベルグ症候群による嚥下障害患者へのパルーン拡張訓練の
進捗に合わせた段階的ケア 坂根 亜紀 (NS・副主任)
看護介護計画の質向上への取り組み~専門委員会による看護介
護計画監査の効果検証~ 西原 結子 (NS)
重症脳血管障害患者に対する入院時訪問指導の有用性について
(第3報)~傾向スコアマッチングによる在院日数に与える影響~ 福江 亮 (PT・RM)
脳血管疾患患者の移乗と歩行自立後の自室内における転倒防止へ
の取り組み~自宅環境の調整と動作指導~ 田中 貴史 (OT・RM)
回復期病棟入院患者の自宅退院後の IADL 実施状況について 渡邊 陽子 (OT)

雑誌・書籍

- 2024.11.5 月間デイ 2024年12月号 (vol.300) p.107
介護老人保健施設 花の丘通所リハ 利用者さんの作品掲載
- 2024.11.25 JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION (臨床リハ)
第33巻・第13号 (通巻404号)・2024年11月号臨時増刊
特集 痙縮治療最前線 回復期リハビリテーション病棟における
痙縮のチーム医療 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2025.1.31 回復期リハビリテーション病棟協会機関誌 第23巻第4号
(通巻91号) 2025年1月号
特集1 回復期リハビリテーション病棟の質の向上~パフォー
マンスを高める取り組み
6. 内服自己管理訓練を改定~多職種で評価し症状に合わせ標準化
pp.16-17 永見 茜 (NS・看護介護部副部長・病棟師長)
9. 50代中等度失語症入院患者へのSFAを用いた呼称訓練の試
行的実施例 p.20 藤原花奈 (ST)
- 2025.1 The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2025
Vol.62 No.2 2025 pp.131-138
特集 伝統ある物理療法・物理刺激の最新エビデンス
5 痙縮に対する体外衝撃波治療 (Extracorporeal Shock
Wave Therapy for Spasticity) 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2025.2 デイケアニュース Vol.24 p.10
会員施設紹介 介護老人保健施設 花の丘
- 2025.2.1 言語聴覚療法管理 医学書院 pp.144-147
チーム医療におけるマネジメント 沖田 啓子 (ST・リハビリ部長)
- 2025.2.3 図解 誤嚥を防ぐポジショニングと食事ケア
食事のはじめから終わりまで (三輪書店) pp.78-85 / 117-122
第3章 5 在宅における食事のポジショニング
第4章 5 嚥下調整食 沖田 啓子 (ST・リハビリ部長)
- 2025.3.18 言語聴覚障害学・言語聴覚法のサイエンス&アート・(文光堂)
pp.192-206
多職種連携とチーム医療 沖田 啓子 (ST・リハビリ部長)
- 2025.4 けあ・こみニュース No.17 p.107
広島大会「ともに歩み、あすを拓く」大会長・実行委員長あいさつ
岡本 隆嗣 (DR・病院長)・上森 奨悟 (OT・副部長)
- 2025.4.8 広島市 中学生のためのお仕事ブック 2025 年度版 pp.20-21
医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院
岡本 隆嗣 (DR・病院長)・
山内 温子 (ST・副主任)・平山 亜純 (NS・副主任)

Web 掲載

- 2024.11.18 mikaru (医療介護福祉の求人・転職サイト/Leverages)
mikaru おすすめブログ紹介_vol.8 西広島リハビリテーション
病院の院長ブログ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2024.12 帝人ファーマ株式会社 医療関係者向けサイト
Ask the Expert 一痙縮治療の最前線から
Vol.3 西広島リハビリテーション病院の取り組み
「亜急性期(回復期リハ病棟)におけるボツリヌス療法の現状と
当院の工夫~西広島リハビリテーション病院の場合~」
岡本 隆嗣 (DR・病院長)

チーム紹介！ 診療放射線技師

当院には、人体にX線を照射して撮影を行う診療放射線技師が5名配属されています。



診療放射線技師の仕事とは？
入院患者さんのレントゲン撮影、CT検査、骨密度検査の他、ウイルの健診でのマンモグラフィやバリウム検査などを行います。診断を行う医師が読影しやすい画像を提供できるように、日々努めています。

確認し、撮影時の体位や順番を検討しています。できるだけ患者さんの負担が少なくなるよう、心掛けています。

やりがいは？

チーム医療について
スムーズな撮影を行うため、他職種から患者さんの症状や意思疎通などについて、事前に情報収集を行います。他職種連携でそれぞれの患者さんに合わせた撮影を行っています。

検査を受ける方にできるだけ負担をかけず、短時間で安全に撮影を終えることができました時に大きなやりがいを感じます。検査中に患者さんとコミュニケーションを取りながら進める中で、感謝のお言葉をいただくこともあり、患者さんに貢献できていることを実感したときにやりがいを感ずります。

心掛けは？

患者さんの中には、身体に不自由がある方や強い痛みのある方もいらっしゃいます。そのため、撮影前には、過去の撮影画像を

今後の展望は？

私たちが撮影しているのは、患者さんの大切な身体だということを深く認識し、より一層成長していきたいと考えています。

医療法人社団朋和会 基本理念

信じ合い、明日を拓く

私たちは「信じ合い、明日を拓く」という言葉を基本理念としております。
「信じ合う」という言葉は、患者さんと職員との信頼関係とともに、職員間の信頼関係をも含んでおります。理想的なリハビリテーションは、ひとりの患者さんを中心に全スタッフが取り組むチーム医療が原点です。たしかな信頼関係のもと、全職員が心をひとつにして治療に取り組めばそこには安心感が生まれ、患者さんに、より大きなご満足をいただけるものと信じております。
「明日を拓く」という言葉は、現状に満足することなく未来へ向けて挑戦したいという私たちの願いです。超スピードで進化する医学の流れをしっかりと見定め、フロンティア・スピリッツを胸に、どんな困難にも立ち向かっていきたいという気持ちをこの言葉で表現しました。
「信じ合い、明日を拓く」この言葉をいつも大切に考え、患者さんやご家族の皆さん、受診者の皆さんにご奉仕し、地域社会の発展に寄与していきたいと心より願っております。

医療法人社団 朋和会
初代理事長 岡本則昭

医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院

〒731-5143 広島市佐伯区三宅6丁目265番地
TEL (082) 921-3230 (代表)
FAX (082) 921-3237 E-mail wel@welnet.jp
URL <https://www.welnet.jp/>

★ 理事長・病院長：岡本 隆嗣



★ 広島中心部より車で約30分 ★ 広電薬々園駅より車で約10分 ★ JR五日市駅南口よりバスで15分

